

令和8年度 第1回富士宮市立学校再編計画策定委員会

開催日 令和8年6月16日(火曜日)

時 間 午後2時から午後3時38分まで

場 所 市役所6階630会議室

1 日程

- (1) 開会
- (2) 教育長挨拶
- (3) 委員紹介（自己紹介）
- (4) 会長、副会長選出
- (5) 会長、副会長挨拶
- (6) 議事
 - ① 学校再編に係る取組について
 - ② 富士宮市立学校再編計画素案（Ⅰ～Ⅲ）
 - ③ 学校再編計画策定委員会スケジュールについて
- (7) 連絡事項
- (8) 閉会

2 出席委員

村 山 功	委員	芦 澤 義 子	委員	望 月 章太郎	委員
伊 東 健 吾	委員	佐 野 安 以	委員	丸 山 純	委員
並 木 和 之	委員	渡 邊 賢 一	委員	佐 藤 健	委員
佐々木 誠	委員	佐 野 和 也	委員	佐 野 浩 市	委員

3 事務局職員出席者

齋 藤 治	学校教育課長	小 林 美 幸	学校教育課参事
遠 藤 伸 昭	教育総務課長	植 松 弘 美	教育総務課主幹兼総務係長
安 藤 昌 輝	教育総務課総務係主査	佐 野 航 佑	教育総務課総務係主事

1 開会 午後2時

2 教育長あいさつ

発 言 者	内 容 （ 要 旨 ）
教育長	富士宮市立学校再編計画策定委員会の開催にあたり、教育委員会を代表して一言御挨拶申し上げます。 はじめに、本来でしたら6月3日に開催する予定でしたが、台風接近に伴い延期になりまして、皆様には再度スケジュール調整いただいて、今日を迎えることができました。台風6号に成り代わりましてお詫び申し上げます。本日、ご出席の皆様におかれましては、御多用のところ富士宮市立学校再編計画策定委員会の委員をお引き受けくださいます、誠にありがとうございます。 皆様、御存知のように、加速度的な少子化問題、これは国レベルの最重要課題の一つとなっております。本市におきましても、ここ数年の出生率は、10年前と比べると約半分、600人を切る500人というような数字となっております。それに伴って、市内の児童生徒数も年々減少の一途を辿るという状況となっております。このような状況の中、本市には小学校が21校、中学校が13校と、学校数が他市町と比べてみても、比較的多い状況かなというところではあります。さらには、このうち小学校の4校では、複式学級が存在するという状況になっており、今後その数も増えていくと予想されています。 昨年度は市議会の総務文教委員会におきまして、少子化に対応した市内小中学校の再編が政策課題となりまして、教育委員会に対し、提言書が提出されております。 本委員会はこのような状況を踏まえて、短期、中長期的なスパンで、目先のことだけではなくて、これから5年先、10年先、さらにはその先を見据えて学校のあり方を検討し、学校再編計画を策定していただくことを目的としております。そのために日頃から学校に関わりのある各団体の代表の皆様にお集まりいただきました。皆様それぞれのお立場で様々な角度から御意見を頂きたいと存じます。 道のりは平坦ではなく、乗り越えなければならない、いくつかの障害もあるかと思いますが、いつも抛り所にしていただきたいと思いますのは、富士宮市の子どもにとって、より良い計画であってほしい、子どもたちにとって幸せ感じる富士宮が想像できる計画となってほしいということを、私からのお願いを申し上げます。挨拶に代えさせていただきますと思います。これからどうぞよろしくお願いいたします。

3 自己紹介

委員12人の自己紹介と出席した事務局職員の自己紹介が行われた。

4 会長、副会長選出

佐野浩市委員が村山功委員を会長として推薦し、承認された。

村山会長が芦澤義子委員を副会長として推薦し、承認された。

5 会長、副会長あいさつ

発 言 者	内 容 （ 要 旨 ）
会長	教育長からの話にもありましたように、全国では一部の地域を除いて、本当に少子化が逃れられない現状で、いろいろな形で皆さん対策をとっているのですが、とれる対策というのは、ほとんど統廃合以外にないというのが現状です。それ以外の方法があるのでしたら、いろいろ考えたいとは思いますが、それが今どこの地域でもないという状況で、我々もやはりこの大きな問題の構造の中で、少しでも富士宮のこどもたちが幸せになるような答えを出すというような形で進めていきたいというふうに思っておりますので、皆様、御協力よろしく願いします。
副会長	教育長もおっしゃられたように、こどもたちがどういう方法が一番いいのか、こどもたちにとってということを念頭にしながら、この会が進められたらということを切に思っています。微力ですが、皆様のお力をお借りして努めてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

6 議事

発 言 者	内 容 （ 要 旨 ）
会長	それでは、議事を進行いたします。
事務局	最初に、「①学校再編に係る取組」について事務局から説明をお願いします。 学校再編に係る取組について、下記の事項を説明した。 ・富士宮市立学校の適正規模・適正配置に関する基本方針 ・こどもたちの未来を考える協議会設置要綱 ・「富士宮市立学校の再編に関する基本計画策定」についての政策提言 ただいま事務局から「1 学校再編に係る取組」について説明がありました。
会長	これについて、御質問等あればお願いいたします。 私から一つ伺いたいのは、令和6年4月に富士宮市教育委員会として作成された方針ですが、これは議会等々の承認を得てはいるのですか。なぜかと言うと、我々がどこまでここに戻らなければいけないかということです。10ページの

事務局	内容はかなり固められていますが、11ページの方では実際に考えるときにはもう少し緩く考えてという内容になっています。議論になったときに、どうしてもこの10ページの内容に戻らざるを得ないと思うのですが、それはどの程度強い拘束力があるのかを知っておきたいです。 この基本方針については、議会承認の位置づけはなされていません。富士宮市教育委員会の定例教育委員会の中で承認いただいているものとなります。
会長	ほかはいかがでしょうか。 (質問なし)
会長	次に、議事の2 富士宮市立学校再編計画素案について、長いのでいくつかに分けて、事務局から説明をお願いします。
事務局	富士宮市立学校再編計画素案の第1章について、下記の事項を説明した。 ・計画の趣旨 ・計画の位置づけ ・計画の期間
会長	このような内容となりますが、よろしいでしょうか。 (異議なし)
会長	それでは第2章について、事務局から説明をお願いします。
事務局	富士宮市立学校再編計画素案の第2章について、下記の事項を説明した。 ・児童・生徒数の推移 ・児童・生徒数の将来推計 ・児童・生徒数及び学級数の現状
会長	これについて、御質問、御意見はございますか。
委員	全般的にやはり児童・生徒数に寄っていきがちではあると思うのですが、市全体とすると、将来推計人口を考えたときに、既に国が出した将来推計人口だと外国人が入っていて、そういうことを考えると、外国籍の児童・生徒が増えるのか、横ばいなのかわかりませんが、そういったことも検討が必要なのかなという気はいたしました。
会長	事務局の方では、その件について、どのような考えをお持ちですか。
事務局	現時点では、外国人の現状のニーズや将来推計などは、第6次富士宮市総合基本計画策定の際の資料でしか把握しておりませんが、今後の外国人の動向については注視していきます。また、本計画に反映するしないについては議論が必要かなと思います。
委員	現状、小学校、中学校でどれくらい外国人の方がいらっしゃいますか。
事務局	手元に資料がありませんので、この場ではすぐにお答えできませんが、調べれば、御報告することは可能です。

会長	ほかにはいかがでしょうか。 (質問なし)
会長	ないようですので、次に進めます。
事務局	富士宮市立学校再編計画素案の第2章について、下記の事項を説明した。 ・施設設備の状況
会長	これについて、ご質問、ご意見ございますか。 (質問なし)
会長	皆さん、今、母校に帰ると自分が通った校舎もそのまま残っていると思います。こどもの数が段々と減っていく中で、決定を少しずつ先延ばしにしていこうとも考えられるのですが、そうこうしている間に校舎が老朽化してしまうので、どこかで決めないと校舎を新しくはしたけれどこどもが来ませんでしたというふうになってしまうので、この校舎の老朽化も決定を急がなければいけない理由の一つではあると思っています。
委員	市で学校の長寿命化を行っていますけれども、基本、長寿命化した場合には70年もたせるということで行っています。5ページを見ていただくと、40年から50年経っている学校が多い中で、70年経つと、もう長寿命化ではなくて、取り壊して新しいものを建てる形になるので、そういう視点で見ていただいて、例えば富士根南小はもう60年経っていますから、あと10年くらいかななど、次回以降の参考にしていただければと思います。
委員	70年経つと使えないのですか。それとも目安ですか。
委員	目安です。富士宮市では70年もたせようと長寿命化工事を行っています。
事務局	公共施設再編計画については、既存の校舎や公共施設について延命措置をとる目的で長寿命化を行っていて、その目標年数が竣工して70年です。70年経った後については、今後の課題でもありますので、取り壊す場合も考えられますし、さらに何かしら躯体に手を加えることも考えられます。現在は、そういった計画で進められています。
委員	延命措置については、1回しかできないと聞いたが、2回も3回もできるのですか。
事務局	現時点では、正確なことはお答えできません。目標年数が経った後の、躯体の状況などの判断となります。
委員	目標耐用年数が70年とすると、富士根南小、二中、四中があと10年くらいですが、既に取り壊すなどの話は出ていますか。
事務局	具体的な取り壊しなどの計画は予定されていません。教育委員会の考え方を市長部局と協議しながら方向性を出していく形となります。 本計画については、学校再編に伴って、学校施設の在り方も考えなければなら

委員	ないということで、ここに揚げさせてもらいました。 市として70年を寿命とするのであれば、まず築年数が60年を超えているようなところは、取り壊すという前提で考えて、再編計画を進めた方がスムーズにいくのかなと思うのですが、そこは70年経ったところでまたそこから長寿命化できるかできないかという判断を早めに施設の担当者と先に協議した方が、順調にこちらの話を進められるのではないのでしょうか。いくら先に進めても70年経ったところで断たれてしまうのであれば、ここで話し合ったこと意味がなくなってしまうので、そこまで詰めていただいたほうがよいと感じました。
会長	統廃合によってなくなるのであれば建て替えはしないけれど、継続するのであれば当然建て替えとなるので、統廃合の計画とシェアしていくものになりますね。
事務局	先ほどの外国にルーツも持つ子どもたちの数ですが、令和7年度と比べてほぼ横ばいです。本年度は、小学生が101人、中学生が47人です。
委員	前年比横ばいですよね。5年、10年での比較はどのようなのですか。
委員	子どもだけの人数ではないですが、5年間で2,000人から3,000人に増えています。かなりの率で増えていると感じます。外国人も増えているので、日本人の数だけで考えてはいけないですかね。
会長	建物の議論に戻りますが、結局築年数70年までということになりますので、例えば学校を統廃合した後の校舎を何かに使おうとかというふうな計画を立てても、それまで校舎がもつかどうかという問題があるので、その辺は地域の方でいろいろ御検討いただくときに頭に入れておいたほうがいいかなと思います。
委員	西富士中学校はどうですか。
委員	小学校は避難所にもなっているので、急になくしてしまうことはできなくて、体育館もありますけど、すぐに壊れないとは思いますが、全くなくなってしまうのは困るので、避難所を建ててくれればいいですけど、教育施設ばかりでなく、そういう面でも配置を考えていかないといけないですかね。
委員	70年となっていますが、古くてすぐ壊れてしまうという意味合いではなく、長寿命化工事をやっているの、耐震補強を先行してやっておりますので、その意味では耐震はされている。
会長	子どもが通わなくなると、建物が急に古くなってくるということがあるので、難しいところだと思います。 このような背景もあるということを御理解いただきたいと思います。 それでは、最後の説明をお願いいたします。
事務局	富士宮市立学校再編計画素案の第2章について、下記の事項を説明した。 ・富士宮市の目指す子ども像

会長 委員	・富士宮市の目指す学校教育 御質問、御意見はございますか。 まず、まちづくりの観点ということで、これからまさに少子化が進んでいきます。総合計画でも謳ったとおり、これからはある意味で少子化を受け入れて、それに見合って一人一人の幸せを作っていく中で、まちの立地適正化というコンパクトシティ化していくというのが、大なり小なり必要になってきます。 やはり、それが学校再編という意味合いでは結構重要なワードになってきますが、富士宮市はまだその計画ができていません。ただ、これからそこに向かっていこうとしていかなければならないと思っていますので、そういった意味では、学校の築年数や人数だけで考えるのではなく、まち全体で考えて、交通の基盤があるところに学校があった方がいいわけですし、離れたところでは他の公共施設が少ないので、そういった所ではこどもの学びとか幸せを考えたらどうなのかな、そういう視点も大事だと思う。その全体として考えていくと、これからちょうど15年の中では、並行していくことになりますので、そういう視点も入れていただきたいなと意見として述べさせていただきます。
委員	今、まちのコンパクト化とおっしゃいましたが、まちというのは、どう捉えたらいいのですか。市内全体をまちと捉えるのか、もう少し詳しくお聞かせください。
委員	富士宮市は、合併を繰り返してきて、例えば白糸や上井出など、そういった所に集落があって、それも守りつつ、やはり駅があって中心市街地というのは富士宮の街中にあるわけですが、その部分がある意味空洞化しているわけです。そういうときに、人数が少ないからそこに学校がなくていいかという、それは拙速なのかなと思います。これから人口が減っていく中で、一人一人の幸せを考えていこうとすると、全部ではないですけど、ある意味便利なところになるべく住んでもらうことは必要になってきます。ただ、富士宮では集落で上井出とか白糸とかそういったところも守りつつ、今度はそこと市街地との交通が必要になってくるのですけども、この学校の再編とはかけ離れているように思えるのですが、まちづくりの方向性としてはそういう方向に行くと思うので、そういったことも踏まえつつ、考えないといけないのかなということで意見を言わせていただきました。
委員 委員	空洞化している中心に、人を寄せてくるということですか。 そうですね。高齢者がだんだん足がなくなってくるとかという問題もあると思うのですけども、やはり交通網が集中しているところに人が住んでいないというのは、やはり違和感があることなので、まちとしてはそこにはある意味、誘導ではないですが、そこに住む人を増やしていくという政策は取っていくように

会長	なります。そうするとおのずとそこには当然家族がありますので、こどもも増えていくということが容易に予想されますので、何人増えるともでは言えないですが、ある意味少子化に対応したまちづくりを進めてくということは、そのようになっていくと思いますので、意識として持っていただければと思います。 最初に教育長さんが言われたように、この委員会としては基本的には、一人一人のこどもが幸せになるということをメインに考えるので、そのことは委員の皆さんが頭に置いておいていただきたいことです。それぞれのいろいろ御専門とか生きざまからここを大事にしたいというのが一人一人違うものをお持ちだと思いますが全員の分を頭に入れておくのは無理ですので、今ちょっとその議論が抜けているなと思ったときに、今みたいな形で補足を入れていただけると助かります。
事務局	先ほどの外国にルーツを持つ子供たちについての御質問の回答になります。令和7年度は148人です。小学校が96人、中学校が52人。令和6年度は146人で、小学校が97人、中学校が49人。令和5年度は139人で、小学校が91人、中学校が48人。令和4年度は120人で、小学校が84人、中学校が36人。令和3年度が123人で、小学校が85人、中学校が38人です。少しずつ増加しているという傾向にあります。
会長	残りの議事はスケジュールのみで、まだ時間がありますので、それぞれの立場で御意見いただければと思います。
委員	私は北部地域で暮らしていて、非常に児童・生徒が少ない地域なのですが、学校再編計画は喫緊の課題で、学校の再編は避けられない部分はあるということとは別に、学校がなくなって地域が衰退してしまうことが一番危機感を覚えるところです。再編計画が少子化に向けた対応とか対処でなく、これを機に田舎の小規模なところの教育の良さをより良くしてアピールして、例えば、移住者を増やすとか、市全体の価値を上げるみたいなきっかけになればいいなという思いで今日は来ました。 一番それが伝えたいことで、まさにそれをお聞きしたいのですが、これを何か教育のグランドデザインと含めて話ができたかなというのが一番あるのですよ。富士宮は本当にそれこそ人間以外の多様性が非常に富んでいて、教育の多様性は人以外もたくさんあると思うのですよ。自然と触れ合うだとか、インターネットなどが発達している中で自然と触れ合うということが非常に、価値が出ている。その中で移住したい人はたくさんいると思います。富士宮は日本一のものがたくさんあるので。もちろん富士山をはじめとして、そこに来る移住者の人たちは、ある意味多様性だと私は思っています。人数が少ないとしても。そういう観点が中心にあることをまず一つ伝えたい。

委員	小規模の生徒の学ぶ機会とか人と触れ合う機会が減ってしまうことは、やっぱり問題だと、親としても思っています。その中で例えばインターネットを活用した、もう例えばウェブ教室などでのふれあいというのはまだまだ増やせるのではないかなという思いもあります。自分のこどもがずっとそこに暮らしていて、例えば鱒釣りの授業やわさびを植える、田植えをするみたいな授業が日本中どこを探しても全然なくて、都会の人に言うと羨ましがられるし、そこで学びたい育てたい人はたくさんいるけど、でも一番の障害になるのが、例えば人が移住そもそもできない、都市計画法とかそういう縛りがあって、そこに移住できない問題もあるし、市としても、まだまだ移住に力をもっと入れられるのではないかなという思いもあります。 その中でグランドデザインという意味で言うと、その中心地と外のこの再編計画というのは、一緒にして話せるのかという疑問もあるのですよ。 全体として、市の方針でいくとどうしても、わかれてしまう所があるのではないかとそういう心配もあるし、その辺りを全体的に思っています。 私は、こんなにたくさんの学校が必要ないなと思っていて、北部、中部、南部みたいな感じで大きく分けて6個に分けて、学区も撤廃して、スクールバス化して、そうすれば校舎にかかる費用がその分スクールバスに掛けられる。学校を選択できるし、親とこどものコミュニケーションの場にもなるし、先生を選んだり、これからの未来に必要な選択性がすごく込められているなと思って、そこを例えば売りにして、この北部の学校では、さっき言っていたわさびの植付けや田んぼだったりができるよというのを売りにしたら、そこに移住者が増えるかもしれない。小学校の教育の観点もガラッと変えて、北部、中部、南部、西部みたいな感じで6個に分けて、自分で好きな所を選ぶ。例えば中心地に住んでいても北部に通うことができるというふうにやっていけば、他の市や町よりも魅力的に感じて、この町で産んで育てる人はもう限られているから、外から呼べるかなと思いました。 それができないのであれば、小中一貫校も一つかなと思っています。建物がすごく古くて、それを一個一個メンテナンスしたらお金ももったいないので、一個に絞って、そこで9年間に過ごすという形にすれば、無駄な税金も使わなくて済むし、新しい何かちょっと違った形があって、魅力的かなと思いました。 あとは小学校の移住体験というのがあってもいいのかなとも思いました。保育園留学といって、空き家などを利用して、2週間くらい富士宮市にある保育園を体験できる機会を作りたいなと思っているのですが、小学校も夏休みとか冬休みを利用して、移住者希望者やオンラインなどで仕事ができる方に、空き家に住んでもらって、実際の小学校の体験も必要なのかなと思いました。
----	--

会長 事務局 委員	ところで、議事録はどうなりますか。 原則、公開となりますが、委員のお名前は伏せてという形になります。 他の委員の意見に同感しています。 建替えの話が出ていますが、元々あるところに建替える必要はないと思います。新たに場所に小学校、中学校を造って、そこにスクールバスで通うというのがいいかなと思います。
委員	例えば、いじめの問題など、こどもが転校したいと思ったときに、スクールバスを活用して自由に転校できるということがあってもよいのではと思います。 今、学校に通えない子がすごく増えているのですよね。ある程度のルールは必要だと思いますが、スクールバスを活用して環境を変えた学校生活を送れるのではないかなと思います。
委員 委員	学校を変えれば、どれくらいのお子さんが通えるのかなと思っています。 学校に通えなくて、県外に出てしまうケースが多いですね。それで楽しく学校生活を送れているので、生活環境を変えるのも大事なかなと。家を建ててしまうとなかなか難しいと思いますが、家から違う学校に通えるとなれば、きっかけになるのかと。現状のままでは絶対に変わらないと思うので。
委員	補足なのですが、この教育再編が、静岡とか富士宮の価値をもう一回考え直す機会になればいいかなと思っています。これブランディングだと思うのですよね。静岡県民は本当にアピールが下手だと思います。なぜなら人口流出が今年、日本一になったのですよね。都心に近い、東京に近いで住みやすいはずなのに人が減ってしまうというのは、これ普通のことをしていたら、ますます減ってしまう。魅力を今までと違う形でアピールしていかなきゃいけない中で、教育をブランディングしていくというところにできないかなと。富士宮に価値がたくさんあると思うのにそれに気づきにくいし、アピールがあんまり上手じゃないと思っているのですが、そういうことを前向きにする流れをスタートできないかなと思っています。
委員	総合計画的には、今おっしゃっていただいたことが重要だと思っています。先ほど、コンパクトシティと言いましたが、当然コンパクトシティ化するのですが、周辺の自治体に個性、特色を出していくということはすごく重要だと思っています。それは地域と繋がるという意味でも。その話をする必要となるのが交通の問題になるので、交通の問題とスクールバスをどうするかとか、どういったらできるのかというのは、早めに議論していかなければならないかなというふうには思っています。
事務局	今、スクールバスの話が出ましたが、再編するに当たっては、こどもたちの通学が必要となってくるので、具体的に決まってくれば協議を進めてい

会長	きますので、委員の皆さんにも御意見をいただきたいと思います。 現状におきましては、事務局から説明した1章から3章で富士宮市の現状や背景について、いただいた御意見を整理していきたいと思います。 もう一点、他の委員から富士宮市のまちづくりについて話がありましたが、本計画の上位計画にあたるのが第6次富士宮市総合計画との整合性を図った上で計画策定となりますので、大きい部分では上位計画で、本計画は学校再編に特化した計画になりますので、整理しながら進めていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。 皆さん、自由に議論していただいて、斬新な意見もありました。今までいろいろな所で議論しましたが、学区という考え方は捨てられなかったもので、スクールバスで市内どここの学校に行ってもいいというのは革新的なプランかなという感じがします。そうすると、これからやっていく議論の中でなかなか足が抜けないところから、スポッと足が抜ける議論ができるということもあるで、その辺をちょっと考えてみるのもいいかなと思います。特にいろいろな所でこの議論をやっていると、こどもの数がすごく減っている所が特区みたいな形で他の学区からも通えるようにしたいという意見は出るのですが、そういう仕組みを入れたからといって、市内から、または市外から来てくれるかという、そうではなかったりします。もう最初からどこでも行けますみたいな形だったら、じゃあ行ってみようかなという家庭が出てきてもおかしくないと思うので、そういった面白いアイデアがいろいろ出てくるとありがたいなという所です。
委員	令和6年から動かれているようですが、今、令和8年で、この2年間のうちに、実際に再編の話が動いている所があるのか教えてもらいたい。 それと、スクールバスの話がでましたが、年配の方が免許返したいけど返せない、バスがないとどこにも行けないようなことを考えると、市として、こどもだけに限らず市内を回れることが大事なのかなと思います。大きなスパンで見たときにもバスは重要かなと思います。 再編に関して、吸収すると統合するとで、親たちが違った意味で認識していると、スムーズに行くことも行かなくなるので、先ほど話があったように新しい学校となるとまた違ってくると思いますので、皆さんと検討できればかなと思います。いろいろ決めるとなると時間もかかると思いますが、急いで何かをつくるよりも、こどもたちのために何かをつくるのが大事なのかなと思います。
事務局	令和6年度から本年度までの取組状況としては、芝川地区の内房小学校が来週3回目の協議会を実施します。協議会の委員は、区長さんをはじめ、保護者の代表、未就学児の保護者、市議会議員さんになります。芝川ですと、内房小、稲子小、芝富小でこどもが少なくなっているの、統合しませんかというお話はさ

委員	せていただいています。稲子小については7月に1回目の協議会を行う予定で、芝富小については、これから協議会の発足ということになっています。 北部では、白糸小と上井出小でそれぞれ2回の協議会を実施しています。第3回目の協議会開催の前に、両協議会の地域の代表者さん同士や保護者さん同士で意見交換をする予定になっています。 過去、上井出中学校と白糸中学校があって、どちらにするかで、結局真ん中をとって、西富士中学校ができた経緯があるのですよね。 小学校についても、西富士中で小中一貫校でと思っていたけれど、リフォームしなくてはならなくて、また1年から2年くらい遅くなってしまう。来年には白糸小で複式学級になってしまうので、7月に集まって話を詰めていこうということになっています。
事務局	今、協議会を設置して、協議会の中で議論を進めています。このことについては、本日は第1章から3章までをお示ししていますが、今後、第4章として具体的に出てきます。中長期的には考えていますが、現在の取組を踏まえた上で作成しますので、またその時にご説明いたします。
会長	ここでいろいろなアイディアを出しつつも、一方でそれぞれ地域ごとに決めてくださっている所があれば、それは無視することはできないので、難しさはあると思います。 細かな議論をしていくと、例えば特別支援学級を全部の学校に置くのか、それとも特定の場所に置くのかというような議論も出てきて、そうするとスクールバスでどこでも行けるみたいな形にしておく配置がしやすいというような話も出てくるとは思いますが、基本的には理念については、やっぱりこどものことを忘れないようにという形でこれから進めていきたいと思っています。
委員	吸収や合併といった話となると、小規模を取り壊して大規模校に取り込まれてしまうような気がして、母校を残してほしい気持ちは誰しもあると思います。 先ほどの話にもあったように、学校を場所に関係なく新たに造って、ただ元々の学区は大事にするということで、もともとの小・中学校を、例えばそこをスクールのバスターミナルにして、そこにこどもを登校させ、市内の各学校に通わせる。元々あった学校もその地域のコミュニティとして活用あるいは防災拠点として使う形で残していくことができるのかなと考えました。 ただ、スクールバスは、災害時にどうやって自宅までこどもたちを無事に安全に送り届けられるのかなという課題もあるので、スクールバスもメリットもあるけどデメリットという課題も出てくるのかなと思っています。
委員	学校を運営をしていく中で一番いいと思うのは、地域の方の力は非常に大きくて、地域が支えてくれているというのは、どこの学校に行っても実感をして

会長	います。先ほどの他の委員のお話聞いてですね、地域の子どもは地域で育てるという観点を、今度、富士宮の子は富士宮で育てるとという考え方も非常にいいなというふうに思いました。 学校の現状をお伝えさせてもらおうと、私は今、大きい学校にいますけど前任校は非常に小さい学校でした。教職員がやはり非常に少ない状況です。こどもたちのことを考えていくと、専門教科の免許を持っている先生が全て揃っているわけではありません。臨時講師に来てもらって授業を持ってもらうという場合もあるのですが、免許外の授業をやる先生もいるというのが現状です。そう考えたときに、学校は、学級数によって教員の数が決まっていくのです。例えば、8人、9人の学校が仮に一つになっても、2クラスにならなければ教員は増えないのですよ。そういった現状も少し皆さんに知っていただけると、今後の話し合いにも有効かなと思って、お話させていただきました。 他にはよろしいでしょうか。 これからの会議でも御意見いただける機会はあると思いますが、学校規模をちょっと大きくして一個一個にちゃんとお金かけて教育の質を上げていくということも一つの考え方ではあるので、その時には具体的に何をやるのかというところまである程度イメージできると、議論としては説得力もあると思います。できればそういうような前向きなところも込みで、議論できたらいいなというふうに思っています。
事務局	そうしましたら、最後の議事、スケジュールについてご説明をお願いします。 学校再編計画策定委員会のスケジュールについて説明した。 ・全5回。第2回目以降、8月、10月、12月、3月を予定。
会長	スケジュールについて、よろしいでしょうか。 このような形で具体的に議論を進めながら、第4回目のあとにパブリックコメントを実施して、市民の皆さんにお示しして、ご意見いただいて、それを踏まえて第5回でまとめる流れになります。

7 連絡事項

第2回会議の日時について説明。

日時：令和8年8月27日（木）午後1時30分

会場：市役所1階112・113会議室

8 閉会 午後3時38分

発 言 者	内 容 （ 要 旨 ）
副会長	皆さんの思いをたくさん聞くことができました。いろいろな多様なこういう考

	え方の中で、これからまとめていくのですが、どんな夢が広がるのか、こどもたちがいっぱい夢を持って、たくさん良い教育環境で学べる、そういう未来を考えながら、この回を進めることができるかなあという希望を持ちました。 次回も皆さんでたくさん意見を出しながら、より良いものにしていければと思います。今日はありがとうございました。 以上をもちまして、第1回富士宮市立学校再編策定委員会を閉会いたします。
--	--